

令和5年度地域版ぎふ木育プログラム開発事業 成果報告書

1. プログラム概要

事業名称	森へのチケット～宮笠編～
題材とする地域 (該当する地域を囲う)	・飛騨地域 ・東濃地域
事業概要 (100字程度)	プログラムの題材である飛騨の木製品や伝統工芸品などのルーツ(森や作家)を知ることができる動画を製作。教材として活用するとともに実際の森を訪ね、そこに関わる人の話を聞く現地イベントへとつなぐ。(今回は宮笠で企画提案)

2. 提案者

氏名または名称	臼田 陽子
住所	
(法人・団体の場合) 代表者の職・氏名	森とひとと木 代表 臼田 陽子
連絡先電話番号	
連絡先メールアドレス	

### 3. プログラム 企画書

①仮タイトル	飛驒の森へのチケット～宮笠編～
②設定時間	<p>○木育プログラム*笠ひででものづくり 10時～11時半・13時～14時半</p> <p>○ツアー*職人を訪ね森を歩く 9時半～12時・13時～15時半</p>
③ねらい	<p>室内での木育プログラムと、職人と触れ合い森を歩くツアーとのセット企画。 まずは木育プログラムに参加することで宮笠、笠ひでという素材に触れ、「実際に職人に会う」、「森に行って樹木に触れる」という体験を順にすることで木（暮らしの道具）から樹（森）へのつながりを実感する。</p> <p>【木育プログラム・笠ひでで作ってみよう：ステップ1～2】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宮笠が樹木（ヒノキとイチイ）からできていることを知り、素材に触れる。</li> <li>・樹木の特性を活かしたモノづくりの素晴らしさを知る。</li> <li>・伝統文化を育んできた森と人にも関心をもつ。</li> </ul> <p>【ツアー・イチイの森を歩く：ステップ3】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宮笠の製作、継承に携わる人から直接話を聞く。</li> <li>・魅力を伝えたい、後世に引き継ぎたい、と思う人を増やす。</li> <li>・実際にその樹木が生えている森を歩き、樹木に触れる。</li> <li>・自然環境について一人ひとりができることを考えるきっかけになる。</li> </ul>
④主な対象者	<p>小学3年生以上。 木育施設を利用している親子、学校や児童養護施設の児童を想定。</p>
⑤参加人数	<p>木育プログラムは、補助者をつけない場合は5～6組程度が限度。 ツアーに関しては経費を考えた場合、公的補助がない場合は親子6組以上の参加が必要。</p>
⑥プログラム進行	<p>木育プログラムとツアーまでを1日通して試行した結果、園児にとって時間が長すぎたというご意見があったため、木育プログラムとツアーは別日に設定し、各1時間半～2時間半で実施することとする。</p> <p>【木育プログラム*笠ひでを使ったものづくり】 1時間半（10時～11時半、13時～14時半など）</p> <p>○導入 宮笠とは（10分）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宮笠が作られる工程や宮笠の魅力を知る</li> </ul>

- ・宮笠の作り方について
- ・実際に宮笠を触ったりかぶったりしてもらう

○展開1 動画鑑賞・趣旨説明（10分）

2つのスタンプ（ものづくり・職人を訪ねる）を集めると森へのチケットになるというストーリーを説明

○展開2 笠ひででものづくり（60分）

- ・職人の手元をまねて編む楽しさと難しさを感じる
  - ・花を編んで、水分を含んだ笠ひでの粘り（折れない）特性を感じる
- ※笠ひでを編むこと自体がかなり難易度が高いため、コースターなどの完成した作品をつくることよりも素材に触れることを重視する内容にする。

○まとめ 10分

- ・鑑賞会 森へのチケットを授与 ツアーの紹介

**【ツアー\*職人を訪ねる・森へ行く】**

2時間半（9時半～12時・13時～15時半）

○導入 趣旨説明とアイスブレイク（15分）

- ・参加者自己紹介
- ・笠ひでのものづくりの振り返りと趣旨確認

○展開1 職人を訪ねる（45分）

- ・宮笠職人・問坂氏のご自宅兼工房にお邪魔して制作過程の一部を見学（伝える内容）

製作工程 歴史 現状 24日市 市内の他の民具

職人の想い 職人になるには など質問にもお答えいただく

- ・チケットにスタンプを押す

○展開2 イチイの森へ（移動を入れて60分）

- ・中島氏（宮笠保存会、イチイの森を守る会）のご紹介
- ・チケットを中島さんに見せてから森を歩く

（伝える内容）

源流域を守る森であること

イチイの樹形の特徴、樹木としての特徴

獣害と保護活動の話

宮笠を作る工程について

森と共にあった人々の暮らし（炭焼きのあと）

- ・森を感じる

心地よいと感じる場所でひとりの時間を過ごす

	<p>○まとめ 感想の共有とふりかえり (30分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木育プログラムとツアー全体をとおしての感想の共有</li> <li>・森の中で振り返ることで「樹から木へ」「森とひととのつながり」を想う</li> </ul>
⑦必要用具等	<p>笠ひで(3等分して一部に色付け) 水につけた笠ひで タオル 接着剤 固定用のクリップ マスキングテープ チケット台紙とシールかスタンプ 子供の人数分の宮笠</p>
⑧想定する参加費	<p>○木育プログラム：500円/人</p> <p>※1時間半 笠ひでを使ったものづくり+動画視聴により宮笠の背景を知る</p> <p>○職人とのふれあいと森歩きのツアー：3000円/大人 2000円/小人</p> <p>※2時間半 職人との交流+見た笠を継承する人と森歩き</p> <p>※飲食する場合はプラスで実費徴収・6組以上にて催行可能</p>

※県からの委託事業によって試行・開発した結果を踏まえて記述すること。

※補足説明する画像、図面、その他資料があれば添付すること。

#### 4. 審査項目に関する事項（試行・開発後）

##### （1）有効性

今回は発信先が地元だったこともあり、全員飛騨に居住している方が対象となった。参加者の中には通訳ガイドとして海外の方に飛騨の魅力を伝える立場の方がいたにもかかわらず、全員宮笠についてその詳細を知らず、笠の軽さや手触り、樹木から作られている、ということに新鮮な驚きを感じている様子だった。

「きれいだけど高くして買えない。」と言われていた人が、ツアーの中盤で「高い理由が分かった」と言われたことも印象的であった。

当初、飛騨より外の地域でコースターづくりを、ツアーを飛騨で実施。と考えて企画していたが、このプログラムは飛騨の人向けにこそ実施する必要性があると感じた。

※当プログラムにより、地域の自然、伝統、森や木の文化とどのようにつながることができるかについて説明すること。

##### （2）新たなアイデア、工夫、独創性

1. 参加者の意識が宮笠から有道杓子や春慶へと拡がり、森からつながって暮らしてきた飛騨人へと想いを馳せてほしいという、当初のねらいどおりの展開になったと感じる。今後違う民具や家具でも同様に、木育プログラムから森へとつなぐツアーを企画できる。

2. 参加者を募集する段階で、養護施設の子どもたちを招待することを思いつき、実施した。幼少期に自然体験を主とした木育に触れることができるかどうかは、親の行動に左右されるところが大きく、まず親世代にこそ木育が必要という想いで活動しているが、親がいない、いても様々な理由で木育に触れさせる機会を作ることができないという課題があることも忘れてはいけなと考えるきっかけになった。

今回は委託事業のため費用面で負担なく実現することができたが、参加費を負担することが難しい状況にある人にも届くプログラムにしていくためには、補助金の活用や、施設や学校のプログラムとしての実施を提案することも視野に入れる必要があると感じた。

※当プログラムに盛り込む新たなアイデア、工夫、独創的な点などについて説明すること。

##### （3）適合性

室内プログラムでは笠ひでを使ったものづくりと動画視聴をとおしてステップ1～2の「ふれあう、親しむ」「関心をもつ、気づく」を、

職人とのふれあいと、飛騨の森の散策ツアーを通してステップ3～4の「調べる、理解する」「考える、判断する」を目指し、段階を意識した内容にすることができた。

プログラムのほとんどの工程で宮笠に触れ合い、親しむことができた。

アンケートはサンプル数が少ないので今後回数を重ねて検証は必要だが、参加者はこの

プログラムを通じて宮笠以外の民具や森にも関心をもったことがうかがえた。  
また宮笠を伝承したい、守りたい、保存会の活動に参加したい。森を大切にしたい。という項目にもチェックがつき、今後調べることや、考えることにつながっていく参加者もあったことがうかがえる。

対象年齢は、主旨や内容を理解できること、笠ひでという素材が扱いづらいこと、ツアーへの参加へとつながること、森を歩く体力や安全性などを考えて、必ず親子で参加、3年生以上で実施が理想だと考える。

※当プログラムが、「ぎふ木育30年ビジョン」に示す1～6のどのステップを意識しているか、また主にどのような世代や属性を対象として想定しているかについて説明すること。

# ツアーの様子

動画の視聴



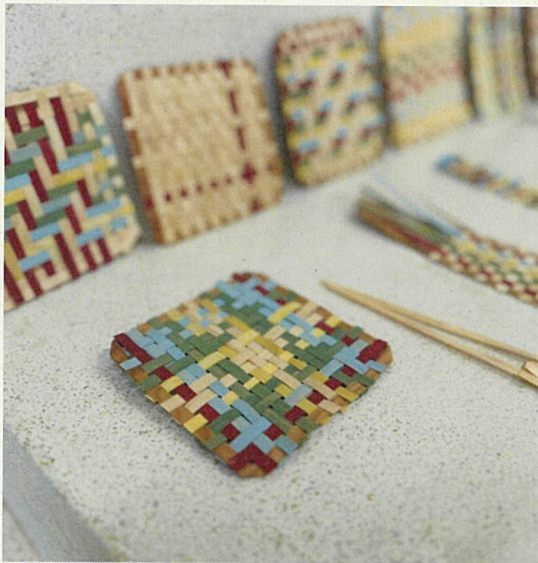
宮笠を知る



笠ひでのコースターづくり



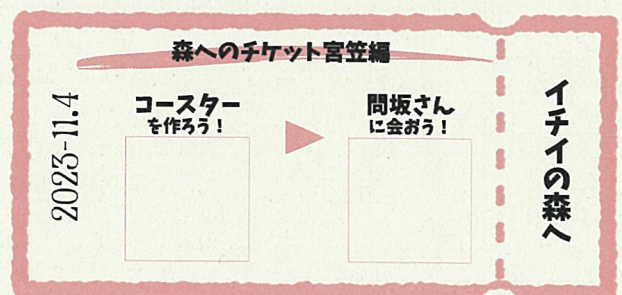
鑑賞会



地本のお店で昼食



チケットにスタンプ (シール)



問坂さんの工房を訪ねる



宮笠保存会・中島さんのお話

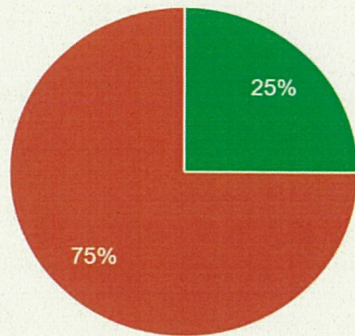




## 参加者アンケート

宮笠のことはどの程度知っていましたか？

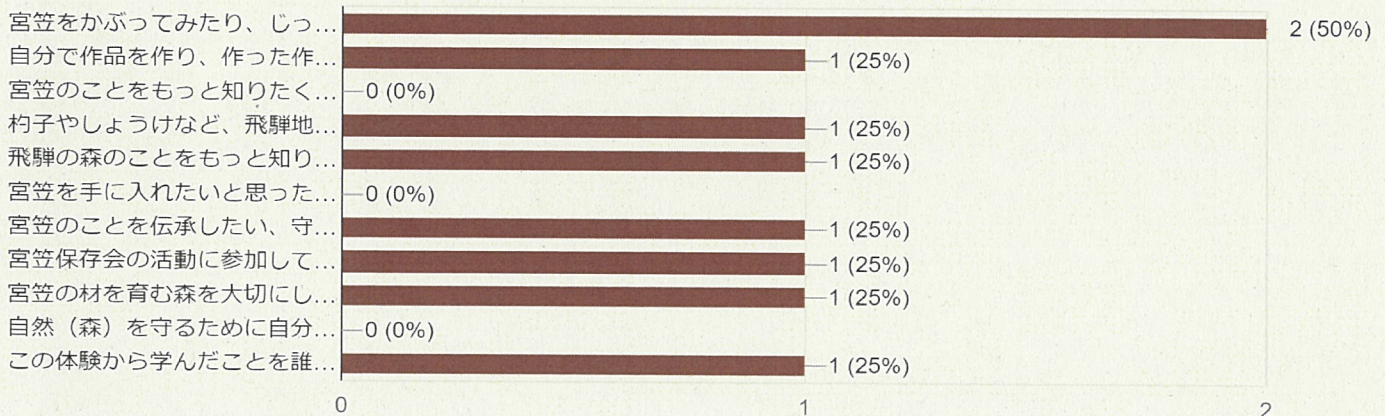
4件の回答



- 持っている。日常的に使っている。
- 飛騨の宮地区に伝わる伝統工芸品だと知っていた。
- 存在は知っていたし、見たことはあったが、初めて触れた。
- 今回その存在を初めて知った。

参加したことで変化はありましたか？複数選択可

4件の回答



### 各内容について

#### 1. 動画と宮笠の説明・・・全員評価5（5段階）

宮笠がどのようにできるのか分かった。

動画はただ宮笠の制作工程を解説するだけではなく、ストーリー仕立てで森への興味に繋がる内容でももしろかった。

動画だけでは分からない宮笠の概要の補足説明で理解が深まった。

#### 2. コースターづくり・・・全員評価5

贅沢に材料を使わせてもらった。少し時間が長く感じた。

子どもにとって、簡単すぎず難しすぎず。

自分で柄や大きさ、形を考えながら自分だけのオリジナルを作れるところがよかった。

#### 3. 問坂さんを訪ねる、実演・・・全員評価5

実際に目で見て、お話を聞くことに勝る経験はないと感じた。

#### 4. がおろでの昼食・・・5評価2人・4評価1人・3評価1人

ボリュームが多すぎて食べられない。

からあげではなく地域のもがあるとよかった

#### 5. イチイの森歩き・・・全員評価5

櫟がとられる場所、炭焼きのあった場所も見られて貴重だと思った。

木をただ見つけに行くだけでなく、森で過ごす時間の心地よさを体感することができる内容だった。

また森に足を運びたいと思った。

#### 6. その他自由記載

子どもが小さくて、へとへとだった。二時くらいに終われると、よかった。

子ども向けのプログラムでも、大人も退屈することなく十分に楽しみ学ぶことができる内容だった。

宮で受け継がれている大切な宮笠なのに、町内でも知らない・関心がない人が多いことが残念だとこれまで思っていた。

今回のプログラムには宮の住人達にも参加してもらいたかった。

制作体験だけではなく、今回のツアーのように森に足を運び、森から製品化までのストーリーで学びたい。また、森林浴など、森での過ごし方も一緒に学びたいと思った。

普段、見られない場所を説明を聴きながら歩くのは、とても楽しかった。

宮笠を知っていても、工房へ見学へ行く機会が無かったので、今回は親子で楽しめてよかった。

貴重な経験をさせていただき本当にありがとうございました。

これからも、子ども達には飛騨の自然や伝統に触れさせていきたい。

#### 7. 宮笠編、に続編を作るとしたら？

杓子、春慶、一位一刀彫、草木染、屋台

#### 8. 料金設定はいくらが適当か

コースターづくり：親子で1000円2名・700円1名・500円1名

工房訪問+森のツアー：3000円3名・1000円以下1名